

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【獣医師体験プログラム】

獣医師の職域は広く、ペットの暮らしや産業動物の飼育、野生動物の保護、感染症や食品衛生、環境問題など、人が生活していく上で必要な多岐の分野に関わっている。そうした幅広い獣医師の世界を体験して学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深める。なお、「獣医師体験プログラム」の監修は、獣医師・獣医学博士で当法人監事である堀尾政博先生にお願いしている。



#### 【監修】

#### 堀尾 政博先生（獣医師／獣医学博士）

産業医科大学医学部講師を経て、長崎大学熱帯医学研究所 教授（平成29年退職）。

長崎大学では、高度安全実験施設（BSL4）の設置準備副室長としても活躍した。

学校法人ヤマザキ学園（動物看護・ケア教育）

で副校長を務めた経験も持つ。

令和5年度は下記の通り「獣医師体験プログラム」を開催した。毎回、現場で働いておられる専門分野に長けた獣医師の先生方を講師としてお迎えし、専門的な話を聞かせていただきながら、スライド、標本なども見せていただくことで、子どもたちが普段経験することのないような貴重な学びの場を提供することができた。

### 令和5年度：12回実施（複数実施含む）

開催日	タイトル	分野	協力依頼・講師	参加者	保護者
令和5年 5月14日 (日)  低・高学年 2回開催	水族園動物の お医者さん	水族園	神戸市立 須磨海浜水族園・ 毛塚千穂 先生	低学年 13 高学年 12	25
6月11日 (日)  低・高学年 2回開催	野生動物との 共生	野生動物	株式会社野生動物 保護管理事務所・ 箕浦千咲 先生	低学年 11 高学年 10	21
7月28日 (金)	多様な動物が 生きる「地球」という環境	動物園	神戸市王子動物 園・ 伊藤慎治先生	8	4
8月10日 (木)	エキゾチック アニマルの生 態と診療	エキゾチック アニマル	北須磨動物病院・ 佐々井浩志先生	講師都合に より延期	

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

8月21日 (月)	「公務員」としての獣医師の仕事	公務員	神戸市保健所西部衛生監視事務所・南 優姫先生	9	12
9月3日 (土)  低・高学年 2回開催	いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには	小動物	大阪公立大学 獣医学研究科・酒居幸生先生	低学年 11 高学年 12	19
10月21日 (土)	身近な大動物・牛	大動物	芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生	19	14
11月23日 (木・祝)	感染症って何？	公衆衛生	大阪公立大学・笹井和美先生	10	9
令和6年 1月28日 (日)	私たちの暮らしと動物との関わり	産業動物	兵庫県農業共済組合（神戸市立六甲山牧場）・島中みどり先生	11	14
3月17日 (日)	人と共に生きてきた馬について	大動物	大阪公立大学 獣医学研究科・石川真悟先生／公益社団法人神戸乗馬倶楽部	21	25
<b>合計</b>	<b>12回実施</b>			<b>147人</b>	<b>143人</b>

令和5年度においても、幅広い獣医師の世界を知り学びを深めることにより、「人と動物の共生」が人の生活に深く関わるものであることへの気付きを促し、様々な「人と動物の共生」の在り方についての理解を深めることができた。その中でも生命を尊重する心、自然に感動する心、探求心を高めるなど豊かな人間性をはぐくむことができるプログラムとなるよう内容にも工夫した。今年度においては、子どもたちのアンケートから希望の多かった、エキゾチックアニマルについて神戸市獣医師会のご協力を仰ぎ、獣医師会所属の先生に講師をお願いしたが、先生のご都合により延期となった。次年度はさらに内容をブラッシュアップし、子どもたちが興味を持って参加できるプログラムを考えたい。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【水族園動物のお医者さん】

水族園には多様な生きものが暮らしている。その健康を守るには、本来の生育環境や生態を背景とした生きものの特徴を知ることが大切である。水族園で暮らす動物たちの病気や治療について楽しく学ぶ。

開催日時：令和5年5月14日（日）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市立須磨海浜水族園・毛塚千穂先生

参加人数：子ども25名、保護者25名 計50名



今回のテーマは「水族園動物のお医者さん～今日はペンギン」と題して、ペンギンがメインのお話をしていただいた。

ペンギンの卵と鶏の卵の比較。小さい方が鶏の卵、大きい方がペンギンの卵。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

\* 低学年

- ・ペンギンクイズがおもしろかった。
- ・ペンギンの赤ちゃんがうまれるところがよかった。
- ・たまごを持てたのがたのしかった。

\* 高学年

- ・ペンギンの住む地いきが意外だった。
- ・ペンギンの卵のおはなしが特におもしろかった。
- ・水族館の獣医の仕事内容が聞けておもしろかったです。
- ・ペンギンやイルカ、アザラシなどの産卵の様子、仕方などがおもしろかった。

子どもたちが一度は訪れている水族園の先生からの具体的な治療や飼育の話、実際に貴重な標本に触れることで楽しく学ぶことができた。また、現場の先生の話を通じて直接聞くことにより子どもたちのイメージも広がり、海に生きる動物への興味も深まったのではないかと感じる。今回は子どもたちにも馴染みのあるペンギンの話がメインということで、わかりやすくもあり、皆熱心に聞いていた。また、イルカの出産シーンは低学年の子どもも高学年の子どももとても印象深かった様子。低学年と高学年の2回に分け、伝え方についても工夫していただくことで、理解度も深まったと思われる。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【野生動物との共生】

里山では野生動物による農作物の被害が多発しているが、なぜそういったことが起こるのかを学ぶ。地球は人間だけのものではなく、多くの野生動物や昆虫などの生き物が共に生きる場所であることを知り、どうすれば野生動物と共存できるのかを考える。

開催日時：令和5年6月11日（日）低学年：13:00～14:00 / 高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：株式会社野生動物保護管理事務所 関西支社 研究員・箕浦千咲先生

参加人数：子ども18名、保護者21名 計39名



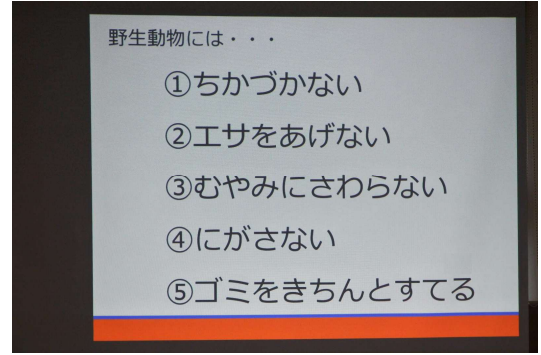
色々な生き物が出て、色々な「生態系」があることを「生物多様性」という。そして、この「生態系」を守るのが野生動物の獣医師の仕事である、と説明。



発信器入りの首輪を付けた動物の居場所をアンテナで追跡するという調査を子どもたちに体験させてもらった。この調査は、動物の行動範囲や生態を知るのに役立つ。



わなに捕まった動物を眠らせて安全に山に返すための吹き矢の実演。



「野生動物と人が同じ地球で幸せに暮らすために私たちができること」

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

\* 低学年

- ・ほねをさわったのがおもしろかった。
- ・あしあとクイズがおもしろかった。
- ・センサーカメラの動物が前をとったときだけさつえいするのがふしぎだった。

\* 高学年

- ・外来生物と在来生物のバランスや生態系を守るお仕事は本当に素晴らしいと思った。地球のお医者さんだということもとても素晴らしいと思った。

「野生動物と人が同じ地球で幸せに暮らすために私たちができること」が実行できると自分たちも「地球のお医者さん」であることを子どもたちが理解できていた様子だった。今年度はこれまで見たことのなかった実演や調査体験があり、次年度も体験型フィールドワークを取り入れるよう準備を進めている。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【多様な動物が生きる「地球」という環境】

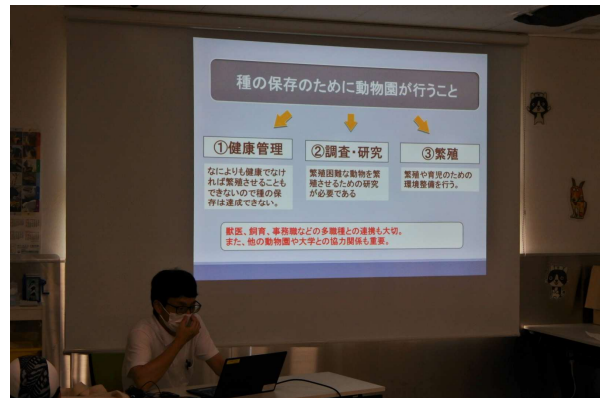
地球（動物園）には様々な種類の動物が生活しているが、それぞれ生きていくために必要な食べ物や環境などが違う。そうした多様な生物が生きていくことができる地球を持続可能な環境として保持するために必要なことを学ぶ。

開催日時：令和5年7月28日（金）14：00～15：00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市立王子動物園獣医師・伊藤慎治先生

参加人数：子ども8名、保護者4名 計12名



スライドを見ながら、動物園の動物たちの話から、地球環境の話まで幅広い内容をお話しして下さる。また、多様性についての説明もあり、地球上の生き物全てが繋がっているということがわかる。

動物園の役割についての説明。ただ、動物を見て楽しむだけではなく、種の保存についても大きな役割があるとのこと。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ゾウのけつえきけんさがおもしろかったです。
- ・パンダやカバ、ゾウや鳥などのしいくは、いろいろなくふうがしていてそのくふうがいろいろあっておもしろかったです。
- ・ゾウの血かんが太い所がびっくりしました。

子どもたちも楽しく訪れている動物園の動物ということで、子どもたちも興味深く先生の話聞いていた。また、動物を取り巻く環境が破壊されてきている現実を目の当たりにし、子どもたちなりに真剣に考えていた様子だった。愛嬌のあるパンダなど動物園のいろいろな動物たちの生態や飼育方法を知ることや、普段見る機会が無い動物園のバックヤードも映像で見ることができ、子どもたちがこれまで知らなかったことを学べた。特にパンダの治療が人間と同じように行われる映像やカバの歯磨きなどを見た子どもたちは、動物がおとなしくしている姿にとっても驚いていた。また、獣医師が動物の生態のみではなく、動物を取り巻く環境や自然という地球環境まで幅広く関わっていることや、そういったことが自分たちの生活の中にまで関わっているということも理解できた様子だった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【公務員としての獣医さんの仕事】

公務員獣医師の仕事は、食の安全の確保、人畜共通感染症対策、動物愛護や福祉の増進、野生動物保護党自然環境保全対策等の広範な分野にわたるが、その中の動物愛護や福祉について学び人と動物の幸せな共生について考える。

開催日時：令和5年8月22日（月）14:00～15:00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：神戸市保健所西部衛生監視事務所・南優姫先生

参加人数：子ども8名、保護者6名 計14名

公務員としての獣医師の仕事は、「ペットショップのような動物を取り扱っている店の立ち入り」「レストランや食品工場などへの立ち入り」など、店がきちんと衛生的に営業されているかをチェックし、指導したりする仕事も含まれているため、獣医療にはとどまらず多種多様な業務内容となっている。今回は、神戸市保健所西部衛生監視事務所での仕事内容について南先生にお話していただいた。



南先生より衛生監視事務所とはどのような業務を行うところかという説明がある。



食品、環境、動物の衛生を監視することが仕事で、営業している店が衛生的に保たれているかを監視および指導・規制をしている。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・動物が健康で幸せに生きるためには、動物を飼育する環境が健全であったり、周りの人がまず健康であることが大切ということが知れてよかった。
- ・動物病院で働く獣医師さんと保健所で働く獣医師さんの違いが分かって面白かったです。
- ・飼い主になるにはどうすればいいかという話がためになりました。

保健所の獣医師は公衆衛生獣医師といい、人の生活に入り込んでいる動物が対象なので、動物の健康が深く人の生活に関わっていると教えていただく。公務員としての獣医師と動物病院との違いは、「目の前の動物を治すのが専門ではなく、社会の問題を解決するという役割を担っている」とのこと。

動物の診察をするだけが獣医師の仕事ではなく、動物の飼い方の指導や店舗の立ち入り検査、規制・緩和なども獣医師の仕事であるということがわかり、子どもたちも獣医師には幅広い仕事内容があるということがわかったようだった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【いちばん身近な存在「ペット」の健康と幸せを守るには】

人間にとっていちばん身近に存在する動物「ペット」の健康と幸せ（福祉）を守るためには、どういったケアが必要なのかを学び、飼い主が日常的に健康状態を観察して獣医師と連携してペットの健康を守ることの大切さを学ぶ。

開催日時：令和5年9月3日（日）低学年：13:00～14:00／高学年：14:30～15:30

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：大阪公立大学 獣医学研究科 小動物臨床教室 ・酒居幸生先生

参加人数：子ども23名、保護者19名 計42名



大学の病院には9つの診察室があり、それぞれ獣医師と動物看護師がペアになって診療にあたっている。病状によっては、レントゲン検査、超音波検査やCT検査なども行っている。

先生から、注射の仕方を教えてもらい、ぬいぐるみの犬を使って子どもたちも注射の模擬体験を行った。ぬいぐるみだと分かっているにもかかわらず、みんな恐る恐る注射していた（針の無いシリンジを使用している）。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

\* 低学年

- ・ねずみはドドドドってしんぞうがなるんだとおもった。
- ・さいけつのれんしゅうがたのしかった。

\* 高学年

- ・自分の心臓音を聞いたり、犬のもけいでさい血のれんしゅうをしたり参考になりました。
- ・自分のしんぞうの音がきけておもしろかったです。

犬や猫は模型を使用するが、薬や聴診器などについては実際に使用されている物を使用し、獣医師と同じように白衣を着用することで、子どもたちも獣医師になった気分でも模型の動物に接し、注射器や聴診器の使い方を先生から教えてもらいながら熱心に模擬診療に取り組んでいた。ペットと暮らしている子ども、ペットと暮らしたいと思っている子ども、将来獣医師になりたいと思っている子どもにとって、ペットと暮らすことがどういうことか、どんなことに気を付ければ良いか等考える機会にもなった。また、聴診器で自分たちの心臓の音を聞く体験ができたことで改めて「いのち」ということについても考えることができたようだった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【身近な大動物・牛】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物にはとくべつな世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、牛が私たちの生活のあらゆる場面で関わりを持っていることを理解する。

開催日時：令和5年10月21日（土）14:00～15:00

開催場所：共生センター ふれあい室

講師：芝崎牛の診療所・芝崎繁樹先生

参加人数：子ども8名、保護者8名 計16名



芝崎先生の自己紹介のあと、牛とはどんな動物なのか、牛の生態や特徴などを子どもたちに語っていただいた。

牛の不思議の一つ、牛の胃の中には間違えて飲み込んでしまった鉄（釘など）が胃を傷つけるのを防ぐために細長い磁石を飲み込ませていると説明していただき、実物を見せていただいた。その磁石は、しばらく留置したあと胃から取り出し交換するとのこと。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・牛のお腹にじしゃくがあるのに驚きました。
- ・ウシの人間でいう指もんは鼻もんで、一頭一頭ちがっているところが不思議だった。
- ・薬の話がとてもおもしろかったです。とくに、乳房炎のさいに乳房に入れる薬に、しきそをまぜていて、それで普通の牛と区別することがおもしろかったです。
- ・薬の投与の仕方などや皮下注射や点滴などいろいろあっておもしろかったです。薬の種類や種類も色々あることも人間に似ているなと思いました。

普段、何気なく食べている牛肉が肉になるまでどのように飼育されているのか、また、どのように加工されているのかということや、牛の不思議の一つ、胃の中に磁石を飲み込んでいることなど、興味深い話を聞くことができた。

そして、牛が病気をして薬剤を使用した場合、肉への残留を防ぐために、食肉にしてはいけない期間が決められており、獣医師がこの判断を誤ると農家に大きな損害を与えてしまうことにもつながるということで、食の安全を守ることも、獣医師には大切な仕事であると教えていただいた。

牛の病気についても、詳しく教えていただき、牛が大切に育てられ、肉牛が肉になって流通にのるまでにも多くの人の手がかかっていることが分かった。



## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【感染症って何？】

新型コロナウイルスの感染症拡大の只中である現在、動物由来の感染症についての正しい知識を学習し、日常生活における感染症対策の重要性を知る。

開催日時：令和5年11月23日（木・祝）14:00～15:00

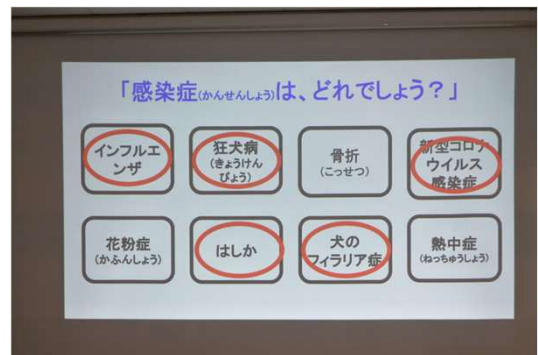
開催場所：共生センター ふれあい室

講師：大阪公立大学 獣医学研究科 獣医内科学研究グループ  
教授 笹井和美先生

参加人数：子ども10名、保護者9名 計19名



インフルエンザを例に出して感染症とは何かについて説明していただいた。子どもたちからは、「ワクチンやインフルエンザのことがよくわかった」という感想が聞かれた。



「人から人へ感染する病気」や、「動物から動物へ感染する病気」「動物から人、あるいは人から動物へ感染する病気（人と動物の共通感染症）」について教えていただいた。



感染症を媒介するダニが血を吸って大きくなる写真に見入っていた。



先生への質問では、子どもたちの関心の深さが垣間見られた。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・動物だけでなく、人間のことも加えて教えてもらったのでわかりやすかった。
- ・ダニや蚊のお話がおもしろかった。
- ・もう少し狂犬病のお話を聞きたい。

「感染症」という子どもたちにとって少し難しく感じるテーマでも、子どもたちが身近に感じられるお話から説明が始まり、興味を持って保護者と共に学んでもらうことができた。「感染症」のことだけでなく、「獣医師の仕事」についても、獣医師が様々な分野で活躍されていることを詳しく教えてくださり、「もっと先生の話が聞きたい」という感想も毎年聞かれる。令和6年度は、対象となる年齢層（学年）を広げ、高校生にも参加してもらえるようにプログラム内容を工夫したい。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【私たちの暮らしと動物との関わり】

人間は様々な動物との関わりの中で恩恵を受けて生きていることに気づき、それらの恩恵に感謝する気持ちを学ぶ。

開催日時：令和6年1月28日（日）14:00～15:00

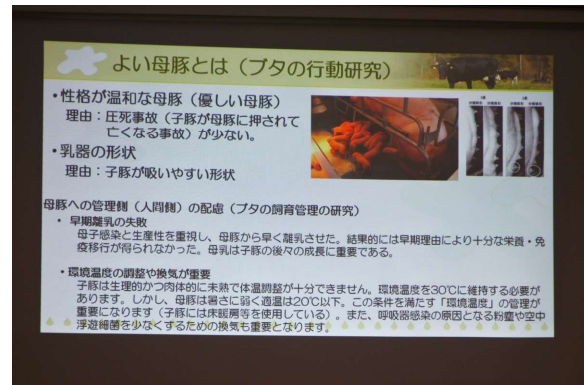
開催場所：共生センター ふれあい室

講師：兵庫県農業共済組合 家畜部 部長・畠中みどり先生

参加人数：子ども9名、保護者5名 計14名



畠中先生より、畜産動物としての牛とはどういった動物なのかというお話をしていただく。また、兵庫県には80人の産業動物獣医師が獣医師として従事している。



豚についてもお話していただいた。今でもどんどん改良がすすんでいる豚は、一度に10匹以上の子豚を産むとのこと。



日本ではお弁当もふくめ、1日一人あたりおにぎり1個分の食べ物が捨てられている。『命をいただいている』ことを考えて食べ物は感謝して大切に残さず食べましょう』とお話があった。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・牛の本当の性格や獣医師の使命が知れました。
- ・獣医師の仕事は、ただ牛の病気を治すのではなく、生産者と消費者の架け橋にもなったり、人工授精、分娩の手伝いなど様々な仕事があるのだと思いました。
- ・牛は胃が4つもあるのを知りました。4つもあるのに、ぜんぶ違う形なので面白いなと思いました。

産業動物について牛と豚のお話していただいた。牛や豚の特徴や生態についてだけでなく、私たちの口に入るまでの過程についても教えていただくことで、子どもたちも命をいただくことについて改めて感じるようになった。産業動物獣医師は産業動物の健康を守るだけでなく、人々の健康や食の安全をも守る大切な仕事だということがわかった。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【人と共に生きてきた馬について】

小型のペットとは違い、人間よりも大きな動物には特別な世話や医療が必要であることを学ぶと同時に、人が馬と共に生きてきた歴史を知ることによって共生という概念を理解する。

開催日時：令和6年3月17日（日）14：00～15:00

開催場所：しあわせの村 馬事公苑 会議室（公益社団法人神戸乗馬倶楽部）

講師：大阪公立大学 獣医学研究科・石川真悟先生

参加人数：子ども21名 保護者25名 計46名（部屋の都合上、保護者の入室無し）

獣医師体験プログラムは、生体に触れる内容ではないが、馬についてはしあわせの村内に馬事公苑があることから、馬事公苑の運営を受託されている公益社団法人神戸乗馬倶楽部様のご協力を得て、馬事公苑内で実施、厩舎の見学までさせていただいた。



今年度も馬事公苑様の会議室をお借りしての開催となった。石川先生から人とともに生きて来た動物、馬について、馬の歴史から今に至るまで、幅広く教えていただく。

先生のお話終了後、馬事公苑のスタッフの方に案内をしていただきながら、厩舎の見学を行った。実際の馬を目の前にした子どもたちは、興味津々だった。

#### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・馬と人のちがいが面白かった。
- ・昔は馬は森などにおいて4本の指があったことは知らなかったのでおどろきました。
- ・馬と人のつながりについて詳しく知ることができました。
- ・馬に人がのること。

昨年度に引き続き（公社）神戸乗馬倶楽部様にご協力いただき、馬事公苑内の会議室にてプログラム開催することが出来た。どの子どもも最後まで熱心に先生の話聞き、質問も熱心にしていました。また、馬に関係する話として、経済動物としての馬に経済性がなくなれば処分されてしまうが、その馬を一頭でも救おうとしている活動についてもお話をさせていただき、それを聞いた子どもたちも印象に残ったようだった。厩舎の見学もできたことで、改めて、馬について興味を持った子どもも多かった。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【犬ともだちになろう】

犬のイラストボードや実際の犬に接しながら、クイズや心臓の音を聞くなどを通して「いのち」を実感し、犬のきもちについて学ぶプログラムである。

犬との接し方を学ぶことで、思いもかけない咬傷事故を予防するだけでなく、犬（他者）のきもちを想像したり、寄り添うきもちの大切さを考えるきっかけを与え、心臓の音を聞く拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）を用い、犬や子どもたちそれぞれの心音を聞くことで、音の違い、速さの違いといった違いに気づき、自分や自分以外の「いのち」の大切さ、「いのち」への共感ができることを目的としている。

このプログラムには、JAHA（公益社団法人日本動物病院協会）の訪問活動で経験豊富なボランティアの方々と、そのご家族である犬たちに毎回ご協力いただいている。



犬のイラストを見ながら、犬がどんな気持ちかを考えることで、犬にも人間と同じように感情があり気持ちを表していることを学ぶ。



犬との挨拶の仕方を教えていただき、実際にボランティアで参加してくれている犬と、一人ずつ挨拶をする。



拡張心音計を用いて、犬と子どもそれぞれの心音を聞き比べることで、違いを実感できる。



プログラム終了後の交流時間。子どもたちの緊張もほぐれ、とても楽しそうな様子。

### 【犬の気持ちをあらわすイラストボード】



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

##### 【顔の表情のイラストボード】



犬の気持ちを考える際、顔のイラストボードを見せることで、犬がどんな気持ちなのかを、各々子どもたちなりに想像できるように、シンプルな顔の表情になっている。

##### <各回参加人数>

実施日	参加者	付き添い	ボランティア	参加犬
令和5年 4月8日（土）	10	10	3	3
6月3日（土）	13	10	5	3
10月29日（日）	11	12	4	3
11月18日（土）	10	12	3	3
12月24日（日）	13	12	3	2
令和6年 3月3日（日）	7	3	4	3
合計	64人	59人	22人	17頭

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・心のおとをきくのがたのしかった。
- ・犬とふれあえたのがたのしかった。
- ・おうちでかえない犬をいっぱいさわられてたのしかったです。
- ・犬に出会ったときのせし方など学べてたのしかった。
- ・いろいろな犬をさわれたり、ふれあい方を知れたり、身体であらわすひょうげんを知れてよかったです。

このプログラムを通し、子どもたちは犬との正しい接し方を学ぶことで、普段のように犬と接したら良いかを知ることができた。イラストを通して、犬にも感情があり、犬が身体のいろいろな部分を使って気持ちを表しているということ学んだり、犬や自分たちの心音を聞くことで、犬も自分たちも同じように生きていることを理解し、自分や自分以外の「いのち」についても考えるきっかけが持てる場となった。

今年度は未就学児の参加もあり、より安全に配慮しながら犬と接する機会が持てた。次年度においては、小学生だけではなく、未就学児や高齢者に対してもプログラムの幅を広げたい。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【いきものといっしょ】（毎週土曜日または日曜日10:30～11:30）

センターに来所した子どもたちに対し、神戸市副読本「いきものといっしょ～みちかなどうぶつに目をむけてみよう～」を活用し、動物たちのきもちについて考えるプログラムを実施する。他者に対する共感や思いやりといった情操や、動物や自然に対する理解や責任といった態度の醸成を図る。



神戸市副読本「いきものといっしょ～みちかなどうぶつに目をむけてみよう～」



家で飼っている犬や猫、家の周りにはいるカラスやスズメ、学校で飼っているカメやウサギ、山にいるイノシシなど、自分の経験から書き込んでいく。未就学児や小学1年生でまだ文字が書けない子どもたちは、絵を描いて表現している。



ペット、学校飼育動物や家畜、野生動物それぞれの気持ちを考え、どんなことに気をつけたら良いのか、自分の考えを書き込み、発表してもらった。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業



「神戸にくらす人と動物たち」のイラストマップの中では、様々な人と動物の関わりを探す。車内に置き去りの犬を見て「熱中症の危険性」に気づき、多頭飼育の場面では、「責任を持って飼える数を飼うべき」という意見が出た。山でイノシシと遭遇する場面では、「驚かせないように静かに逃げる」「野生動物のすみかに近づかない」という意見が多く聞かれた。

家族での参加が多く、保護者も一緒に学ぶことで家庭に帰ってからも話題にしたり、振り返ることができる。

今年度は、民間の学童保育施設からの要望もあり、春休みに日程調整をして実施した。小学校休業日の子どもたちの活動として学ぶ機会を提供できた。

学童保育の場合は、参加する子どもの学年も異なるため、低学年にも理解できるように説明の仕方を工夫している。

施設での振り返りだけでなく、家庭に帰ってからも話題にしてもらうために、更なる工夫を考えたい。

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・ いろんな生きものの気持ちがあわかったのしかった。
- ・ いろんなどうぶつのおべんきょうができたのがたのしかった。
- ・ 犬や猫を長く飼わないといけないことがわかった。
- ・ してはいけないことをもっと勉強したい。
- ・ もっと動物のことを知りたい。
- ・ 改めてペットや他の動物との関わり方を勉強し直すことができた。
- ・ ペットがどんな気持ちか考えることができて良かった。
- ・ 今まで知らなかったことを学ぶことができて良かった。家でのペットとの暮らしにも活かしたい。
- ・ 妹の方は人見知り知らない人とはしゃべれないけれど、今日はとても楽しそうにいろいろと話をしていた。自分の好きな動物のことだったら、積極的に話ができるのだとわかって驚いた。
- ・ 神戸市内の地図からどのような動物がいて、どのような問題点があるか、イラストを見て子どもと学ぶのが楽しかった。

毎週土曜日の開催としていたところを、曜日を固定せず毎週土曜日または日曜日と改めたことで、昨年度に比べて実施回数増につながった。

家族での参加が定着しており、人と動物の関わりについて学んだ内容を家庭に帰ってからも話題にする機会が提供できている。民間の学童保育施設からの要望にも応えることができ、今後も夏休みなど小学校の長期休業中の開催要望に対応していきたい。令和6年度は、土曜日または日曜日については他の新規事業の日程確保も必要であるため、固定した開催日程は月に2回（土曜日または日曜日）とし、それ以外は休館日以外の随時開催とし、曜日と時間を希望者と調整する等市民の参加希望によりきめ細やかに応えられるようにしたい。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

##### <各回参加人数>

実施日	参加者	保護者	合計
令和5年 6月 9日 (金)	2	トライやるウィーク	2
6月25日 (日)	2	1	3
7月23日 (日)	2	1	3
7月30日 (日)	3	2	5
8月 4日 (金)	9	動物愛護スクール	9
8月11日 (金)	8	動物愛護スクール	8
9月 2日 (土)	1	2	3
9月17日 (日)	1	1	2
9月23日 (土)	3	2	5
9月30日 (土)	3	1	4
10月 7日 (土)	1	2	3
10月15日 (日)	3	2	5
10月21日 (土)	1	1	2
10月22日 (日)	2	2	4
11月 6日 (月)	2	トライやるウィーク	2
12月10日 (日)	1	1	2
令和6年 1月13日 (土)	1	1	2
2月24日 (土)	4	2	6
3月27日 (水)	6	2	8
3月30日 (土)	1	1	2
<b>合 計</b>	<b>56人</b>	<b>24人</b>	<b>80人</b>



#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【VRで体験！いぬねことのくらし】

生身の動物に触れる前に、疑似体験を経験できるツール（VR）の活用を通して動物の習性や行動について理解を深める。犬猫との正しい接し方や適切な飼育について学び、動物の気持ちを想像しながら、実際に動物に接するときにはどんなことに気をつけたらいいのかが子どもたちが自ら考え、他者に対する共感や思いやりの心を育てる。VRの体験と共に、環境省発行の冊子「どうぶつといっしょにくらそう」を使って動物の気持ちを考える。動物アレルギーを持つ子どもにも安心して参加してもらうことができる。




VR教材については、ネスレ日本株式会社の支援により、日程調整の上、無償で貸出をしていただいている。

VR教材の内容は、「犬・猫のかわいさと正しいふれあい方」「適切な飼育」の二部構成となっている。

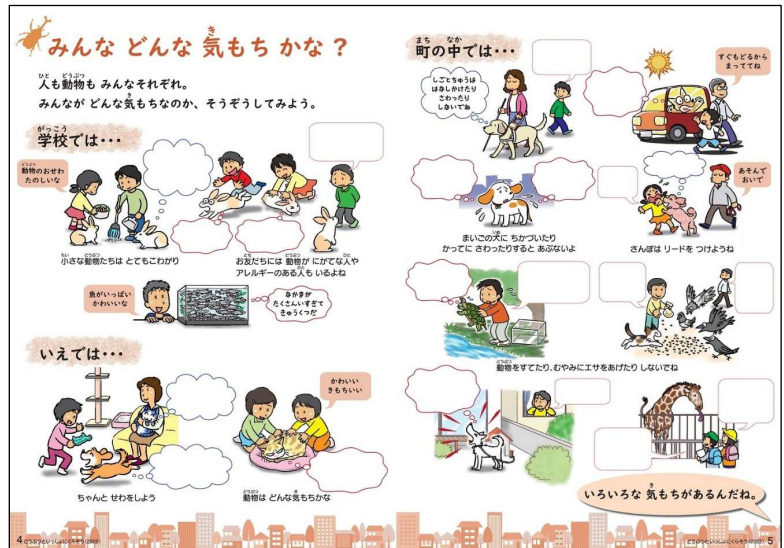
使用対象は、目の発達や仮想空間を理解することに無理のない7歳以上とされている。

視聴動画の再生、一時停止はタブレットで操作を行う。

 **PURINA** 【協力】ネスレ日本株式会社 ネスレピューリナペットケア  
Your Pet, Our Passion.®



環境省発行「どうぶつといっしょにくらそう」



「どうぶつといっしょにくらそう」ワークシート

実施日	参加者	保護者	合計
令和5年 8月9日（水）	2	2	4
8月26日（土）	6	6	12
合計	8人	8人	16人

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業



目の前に実際に犬や猫がいるような映像が流れ、手を差し出して撫でる等の疑似体験が可能となっている。



犬へのあいさつの仕方を映像を通して学んだ後は、犬の模型を活用してあいさつをする。



車の中に置き去りの犬は、「一緒にいきたいよ」「一人にしないで」と気持ちを想像。また「車の中が暑くなって、死んでしまうかも」と熱中症の危険性にも気づいた。



付添で一緒に来たVR視聴の対象年齢未満の子どもにはタブレット視聴で対応した。

##### 《参加者の感想より一部抜粋》

- ・VRでねこやいぬをかっているみたいになってうれしかった。
- ・目の前にリアルな犬やねこがでてきて、さわり方など教えてくれてよかった。
- ・えいぞうがみれてたのしかった。
- ・ねこの気持ちもよく分かったし、VRで見るのが楽しかった。
- ・ねこが「イヤ」とあらわしているかもしれないから、そういうサインもしてみたいと思った。
- ・迷子の犬と会ったときのたいしょの方法を知ることができてよかった。猫と犬についてくわしく知ることができた。

VR機材の操作方法については、事前にネスレ日本株式会社 ネスレ ピュリナ ペットケアのご担当者にレクチャーしていただいた。タブレットで操作するプログラムであるため、推奨されている対象年齢の7歳未満の子どもに対しては、VR機材を着用せず、タブレットを視聴してもらうなど、きょうだいで一緒に参加できるように配慮した。

令和6年度はサマースクールでも実施する等、アレルギーを持つ子どもが参加できる機会を増やしたい。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 【「いのちの教育」プログラム】

「いのちの教育」プログラムは、2012年に奈良県で開発された主に小学生を対象としたプログラムであり、公益社団法人Knotsは同年6月より「いのちの教育」普及展開について奈良県と連携協定を結び、10年以上にわたってプログラムの普及展開や内容のブラッシュアップなどに関わっている。

管理運営業務を受託しているこうべ動物共生センターにおいても、動物共生教育事業として「いのちの教育」プログラムを導入している。このプログラムは、人間が一方向的に動物をかわいがるといふ「愛護」から、人と動物の関係性を知り、お互いを尊重する「共生」に重点を置いた内容になっており、子どもたちが自ら参加するアクティブラーニングの手法で3つのプログラムを通して「気づき」「共感」「責任」というステップを通し、相手の立場を想像しながら互いの「いのち」の大切さを学ぶ。他者への理解を深め、共感・思いやりの心を育て、規範意識を醸成し、心豊かな市民の育成に貢献する。

令和5年度は2校の依頼を受け、神戸市立泉台小学校2年生2クラス、  
神戸市立真陽小学校3年生2クラスで実施した。

実施日時：神戸市立泉台小学校 令和5年6月22日（木）／7月13日（木）／  
9月11日（月）2限目・3限目  
神戸市立真陽小学校 令和5年7月5日（水）／9月28日（木）／  
11月16日（木）3限目  
実施場所：神戸市立泉台小学校 多目的室／神戸市立真陽小学校 多目的室  
講師：公益社団法人Knots  
事務局長 北村美代子／企画教育部 企画教育係 金藏江津子  
参加人数：神戸市立泉台小学校 児童63名（2クラス） 教員2名  
神戸市立真陽小学校 児童40名（2クラス合同） 教員2名

### 《プログラムⅠ「私たちと動物との関わり」》

プログラムⅠでは、子どもたちが大型の張り子を「街」「牧場」「自然」の3つのすみかに運ぶ。「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《ペット》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《家畜》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《野生動物》が、それぞれの環境や人間とどのようにつながっているのかということに、子どもたちが自ら気づいていく。



張り子の動物たちを3つのすみかに運び、人間と動物がどのようにつながっているのかを一緒に考えつつ、「街」で暮らし人間が最後まで世話をする《ペット》、「牧場」で暮らし人間の役に立つために育てられている動物で、人間が管理し、世話をしている《家畜》、「自然」の中で暮らし、人間が世話をせず自分の力で生きている《野生動物》という動物とそれぞれの関わり方があることに気づく。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 《プログラムⅡ「動物と私たちのいのちは同じ」》

プログラムⅡでは、動物にも人間と同じように感情があり、それぞれの動物には、私たちと同じように「生きるために必要なもの（ニーズ）」があり、気持ちがあることを学ぶ。「生きている証拠」を探し、「いのち」を実感できるものとして拡張心音計を用いて子どもたちひとりひとりの心臓の音を聞き比べ、同じ人間でもひとりひとりの心音に違いがあることを理解していく。こうした体験を通して、人間と動物が同じたったひとつの「いのち」を持っていて、「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であるという「共感」を生む。

全員の心臓の音を聞き終わった後に、なぜ一人ひとりの心臓の「音の大きさ」「速さ」「リズム」が違うかを子どもたちにたずね、ひとりひとり違う人間だから、心臓の音＝「いのちの音」もひとりひとり違うのだと気づく。自分の持っている「いのち」は世界でたったひとつのもの。そのたったひとつの「いのち」は、私たち人間だけが持っているものではなく、動物も同じように持っていることを理解する。



拡張心音計（心臓の音を拡大してスピーカーから聞くことができる機械）



人間と同じように、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズがあることを2枚のパネルの絵を見ながら、それぞれの動物の気持ちを考えた。



左上のパネルでは、挙手で意見を出してもらい、「早く散歩に行きたい」「早く走りたいよ」「うれしいな」など、現在の犬の気持ちを想像して意見を出してもらった。

右上のパネルについては、ミニホワイトボードを使って思いつく限りの犬の気持ちを記述してもらった。「ぼくだけさびしいよ」「かまってほしいよ」「なんで飼ったの?」「飼育環境がひどい!」「体もマットも洗ってほしい」など、多くの意見が出た。

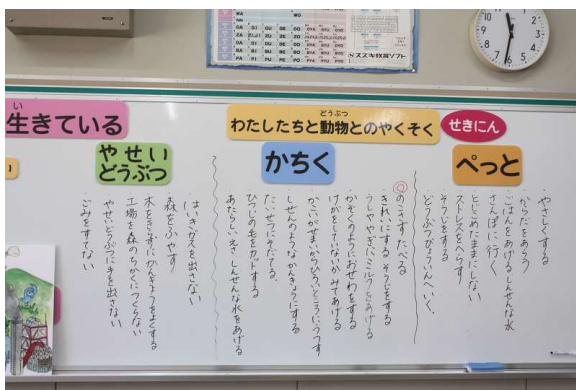
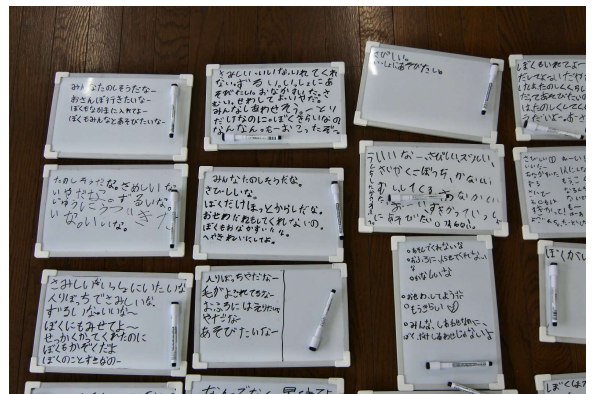
相手の気持ちを想像することで、動物にも「こんなふうに暮らしたい」というニーズを持っている存在であり、「動物にもこころがある」ことを知る。

## ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

### 《プログラムⅢ「動物のために私たちができること」》

プログラムⅢでは、私たちの周りにはいる動物たちが幸せに暮らすためにどんなことができるのか、何をしなければならないか、私たち人間が果たすべき「責任」について考える。自分たちが動物の「いのち」のために果たすことができる「責任」を「私たちと動物とのやくそく」として認識させ、身近なところから自分たちができることを考える。

「ペット」「家畜」「野生動物」が幸せに暮らすために、自分たちにできることを考えた。ここでもホワイトボードを活用し、みんなの前で意見を述べるのが恥ずかしい子どもも、自分の意見を書き込んで記録に残すことで、授業に参加したという一体感を生む工夫がされている。



《家畜》と同様に人間が世話をする《ペット》にも共通して考えられる「エサ（ごはん）・新鮮な水をあげる」「動物病院へ行く・けがをしていないかみてあげる」というような意見だけでなく、「広いところにうつす」「自然のような環境にする」「掃除をする」というような《家畜》が暮らす環境についての意見もあった。

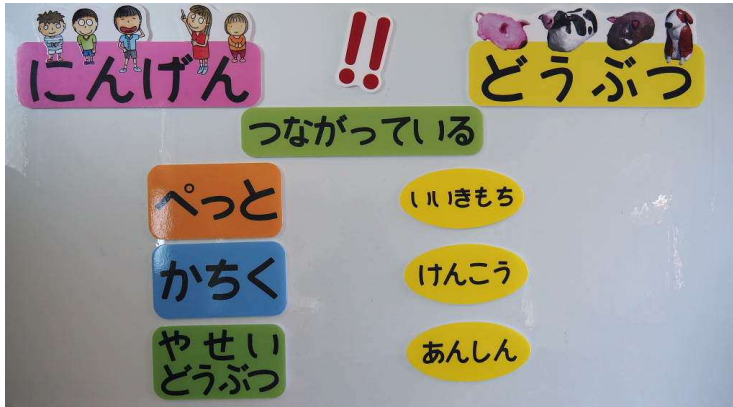
また、人間の役に立つものを与えてくれる《家畜》に対して、「残さず食べる」といったことにも思いを馳せることができるため、食育や給食指導にもつながっている。

《野生動物》は人間が世話をせず自分の力で生きている動物であるため、《ペット》や《家畜》のようにエサを与えたり体を洗って清潔にしたりしない。《野生動物》のすみかである「自然」に対してできることを考える。

「排気ガスを出さない」「森を増やす」「木を切らずに環境を良くする」など、小学校低学年の学校教育では、まだ「環境」という概念を授業の中では指導していないが、人間や動物を取り巻く環境の大切さを自ら感じ取ってくれるようになる。

#### ④ 「一緒に学ぼう！ For Kids」 子どもを対象にした動物共生教育事業

各プログラム実施の前に、前回の「ふりかえり」に十分な時間を費やしている。この「ふりかえり」の重要性については、奈良県「いのちの教育」研究協議会においても指摘されており、「ふりかえり」を行うことによって長期的に子どもたちの記憶の中に学習効果が定着すると言われている。



プログラムの要所要所で、パネルを見ながら全員で声に出して読み上げている。キーワードとなる言葉に対しては、次回のプログラムの導入部分につなげるため、記憶の固定化を促す工夫がされている。

##### 《子どもたちの感想より一部抜粋》

- ・ペットや野生動物のことがとてもくわしくなっていてうれしかったです。
- ・人間と動物がつながっているのは知らなかったから、それがすごいなと思いました。
- ・動物のたいせつさをおしえてくれてありがとう。
- ・いきものことがたくさんわかりました。いのちは人間も動物にもあるとわかりました。
- ・いのちがどれほどたいせつかがわかりました。
- ・しんぞうの音を聞いたりしたのが特に楽しかった。
- ・色々なことを教えてくれたから、少し動物に興味をもちました。人間と動物は共存して生きるべきだと思いました。
- ・しあわせの村で、こうべ動物共生センターに行ってみたいです

実施協力校が1校増え、神戸市立小学校2校で「いのちの教育」プログラムを実施することができた。ひとつの小学校ではプログラムⅢについては、オープンスクールの日に設定していただき、希望する保護者にも授業を見学していただけるよう、ご配慮いただいた。家庭においても、親子の会話の中で「ふりかえり」をする機会を提供できた。

張り子の動物を使ったこの「いのちの教育」プログラムは、動物アレルギーや動物が苦手な子どもも参加が可能であり、生体を使用しないため動物のストレスがなく、実施者も「動物に負担をかけている」というプレッシャーから解放されるというメリットがあり、子どもたちが心を開きやすくイメージしやすい動物を入り口とした汎用性の高い教育プログラムである。動物からの学びは、自分以外の他の存在に気づくこと、他者の心を知り、共感したり、感情移入することで、関わる他者に対して果たすべき責任がひとりひとりにあることなどを学ぶことができる。自分のできることから実行し、他者や社会全体の課題を自分の課題として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こすことができる「持続可能な社会の創り手」の育成にも貢献できる。令和6年度についても、泉台小学校、真陽小学校からは継続実施について相談があり、真陽小学校については実施日を調整済である。また、先生方のご異動に伴い、新たに広陵小学校からも実施依頼があり、2学期以降での実施で日程を調整している。実施校を増やしていくために今後も環境衛生課や教育委員会等と相談・調整を行っていく。